# 幼児の言語発達に関する研究（Ⅱ）

## ――言語発達遅滞児の発達経過についての一事例（2）――

研究第5部　丸　尾　あき子

## Ⅰ　目　　的

すでに言語発達遅滞の原因として，環境や扱いに問題のみられる一事例の観察指導について発達経過を述べたが，今回はその事例を構文の面から考察して言語がどのような過程をたどり，いかなる変化をみせたか量的に発達状況を明らかにすることにした。

## Ⅱ　方　　法

経続的に34回指導を行ない毎回テープレコーダーにより収録したものの中から，第1回目，指導に入った9回目，そうして中間の16，25回目，close 前の32回目と計5回を選び検討の対象とした。

先ず最初の15分間を文字化して話された有意味語を文単位に一枚ずつカードに記入し，文の数，品詞の出現率文の種類及び構造，語彙などについて分析を行った。

1）**文の数**　15分間に話されたもので基準として，一文として完成しているもの，休止できれているもの，並列文，複文などを一文にした。

2）**品詞数**　名詞，代名詞，数詞，動詞，形容詞，連体詞，形容動詞，副詞，接続詞，感動詞，助動詞，助詞の各品詞に分類し擬声も加えた。

3）**文の種類**　文を意味上から，擬声，文にならないもの，平叙文（肯定文，否定文），疑問文，命令文に分類した。

4）**文の構造**　文の構造上から文節によってきり，一文節，二文節，三文節，多文節（四文節以上）からなる文，並列文，複文に分類した。

5）**語彙**　発語を各品詞別に分析して数えた。

## Ⅲ　結　　果

### 1　指導経過による結果

a）　第1回目　2；3―15

(イ)　文の数

第1表は理解可能（一部理解可能も含む）な有意味語だけを取り上げたもので文の数は47である。一文中にみられる品詞数は一品詞のものが80.9%で大部分を占めている。

(ロ)　品詞数

使用されている品詞の30%は名詞であり，動詞，代名詞，感動詞，助動詞がこれに次いでいる（第2表）。

**第1表**　文の数

| 一文中の品詞数 | 文の数 | % |
|---|---|---|
| 1 | 38 | 80.9 |
| 2 | 7 | 14.9 |
| 3 | 1 | 2.1 |
| 4 | 1 | 2.1 |
| 合　計 | 47 | |

(ハ)　文の種類及び構造

第2表　品詞の出現率

| 品詞 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 18 | 30.5 |
| 代名詞 | 8 | 13.6 |
| 数詞 | 3 | 5.1 |
| 動詞 | 9 | 15.2 |
| 形容詞 | 3 | 5.1 |
| 感動詞 | 8 | 13.6 |
| 助動詞 | 8 | 13.6 |
| 助詞 | 2 | 3.3 |
| 合計 | 59 | |

第3表　文の種類

| 文の種類 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 文にならないもの | 37 | 78.7 |
| 平叙文 | 7 | 14.9 |
| （肯定文） | (7) | (14.9) |
| 疑問文 | 2 | 4.3 |
| 命令文 | 1 | 2.1 |
| 合計 | 47 | |

第4表　文の構造

| 文の構造 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 一文節 | 45 | 95.7 |
| 二文節 | 2 | 4.3 |
| 合計 | 47 | |

第5表　語彙の出現頻度

| 品詞 | 頻度 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 9 | 34.6 |
| 代名詞 | 2 | 7.7 |
| 数詞 | 1 | 3.8 |
| 動詞 | 6 | 23.2 |
| 形容詞 | 2 | 7.7 |
| 感動詞 | 2 | 7.7 |
| 助動詞 | 2 | 7.7 |
| 助詞 | 2 | 7.7 |
| 合計 | 26 | |

第3，4表に示したように，いまだ文の形態にならない一語文が殆んである。

(ニ) 語彙

第5表は使用された語彙数で，26である。使用頻度の高いものとして名詞がみられ，内容としては交通に関したもので，ブーブ，デンシャ，キシャポッポ，ホーム，テッキョウなどがある。次いで動詞で，アッタ，落チタなど過去形であるが，活用形の上からみると連用形の使用がみられる。使用頻度の高い語はタ（助動詞7）ココ（代名詞6）ウン（応答5）である。

以上は初回の構文の分析結果である。Tとしては，場面に馴らす為に，働きかけを多くした。玩具を渡して接触につとめる。興味のあるものに対して繰り返し発語して聞かせ刺戟を与える。黙って玩具をいじっている時は動作の言語化を行うなど心掛けた。Cは最初は小さく息で発語するので聞きとれない場合が多い。馴れるに従い声が大きくなるが発声のコントロールがうまくいかない状態がみられる。併し発語意欲はみえている。内容としては命名，あいずちの答が多い。

b）　第9回目　2；5—24

(イ) 文の数

文の数は急激に210と増加している。一文中の品詞数はまだ一品詞のものが半数以上であるが二品詞のものもみえだしてきた。（第6表）

(ロ) 品詞数

第7表にみるように品詞の種類は多くなり他の品詞も

第6表　文の数

| 一文中の品詞数 | 文の数 | % |
|---|---|---|
| 1 | 137 | 65.2 |
| 2 | 39 | 18.6 |
| 3 | 24 | 11.4 |
| 4 | 8 | 3.8 |
| 5 | 2 | 1.0 |
| 合計 | 210 | |

第7表　品詞の出現率

| 品詞 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 79 | 23.9 |
| 代名詞 | 29 | 8.8 |
| 動詞 | 44 | 13.3 |
| 形容詞 | 4 | 1.2 |
| 形容動詞 | 19 | 5.7 |
| 副詞 | 5 | 1.5 |
| 感動詞 | 18 | 20.6 |
| 助動詞 | 18 | 5.4 |
| 助詞 | 63 | 19.0 |
| 擬声 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 331 | |

第8表　文の種類

| 文の種類 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 擬声 | 2 | 0.9 |
| 文にならないもの | 151 | 71.2 |
| 平叙文 | 35 | 16.5 |
| （肯定文） | (34) | (16.0) |
| （否定文） | ( 1) | ( 0.5) |
| 疑問文 | 2 | 0.9 |
| 命令文 | 22 | 10.5 |
| 合計 | 212 | |

第9表　文の構造

| 文の構造 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 一文節 | 176 | 83.8 |
| 二文節 | 31 | 14.8 |
| 三文節 | 3 | 1.4 |
| 合計 | 210 | |

第10表　語彙の出現頻度

| 品詞 | 頻度 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 30 | 38.0 |
| 代名詞 | 4 | 5.1 |
| 動詞 | 14 | 17.7 |
| 形容詞 | 3 | 3.8 |
| 形容動詞 | 5 | 6.3 |
| 副詞 | 1 | 1.3 |
| 感動詞 | 4 | 5.1 |
| 助動詞 | 6 | 7.6 |
| 助詞 | 10 | 12.6 |
| 擬声 | 2 | 2.5 |
| 合計 | 79 | |

出現し始め感動詞，助詞の使用が目立つ。

(ハ)　文の種類及び構造

第8表に示したように文にならないものが依然として大部分を占めるが肯定文の使用もみえだした。即ちツクッテコレ，カイテドータン，トッテ，モットなど文にならない要求が多いが，動詞や代名詞と共に状態を説明するアッタ，入リマシタ，カワイイノ，コレ取ッタ，ココアッタについで主語述語をともなったウサギカイタノも話され始めた。文の構造は第9表のとうりであるが，二文節を文節との関係からみるとオオキイノガアッタ，ココツメタイノ，バーチャンオマドのように主語，述語，修飾語などの結びつきがあらわれてきた。なおハイルノココ，アッタココというように文節の倒置もみられる。

(ニ)　語彙

語彙数は79と急激に増加しているが相変らず名詞の使用が多い。内容としては日用品に関するものでテープ，カミの使用頻度が高い。また，身体に関するものでアンヨ，ハナ，固有名詞で自分の名前が度々使われ動物のゾーサン，ウサギがこれに続く。次いで第1回目と同じように動詞の使用がみられ書イテ，作ッテ，取ッテなど要求を表現する連用形が多い。助詞では接続助詞「テ」の使用が目立ち終助詞「ノ」がこれについでいる。なお使用頻度の高い語としてウン（応答53）テ（接続助詞22）ノ（助詞21，終助詞16，格助詞5）がある。（第10表）

以上は指導を開始した9回目の結果でありTは語彙を豊富にしようと新しい語を繰返して刺戟したり話題を提供したりする一方発語に対して状態の説明動作の言語化を行った。Cには学習意欲，発表意欲，伝達意欲がみられだす。即ち，チュキハイッテテ，ハイッテテ，ハイッテタと繰り返し学習して云い直して伝えるなどの繰り返し語が多かったり，自発的にツメタイノココと倒置された文を発語しTが聞き返とココツメタイノと正しい修飾に訂正して伝える。お上手じゃないのとTがいうとオジョウズダワと模倣し直ちにTの行動に対してオジョウズと使用する。併しまだ不明瞭で理解出来なかったり抑揚はゆっくりで会話のアクセントより遠い状態であり独語も多く伝達の拙なさがみえる。

c）　第16回目　2；7—12

(イ)　文の数

文の数の増加はみられないかわりに一文中の品詞数の変化がみられだす。即ち二品詞のもの，三品詞，四品詞と品詞を重ねて話される文の長さの変化で，長い文が話されるようになってくることがうかがえる。（第11表）

(ロ)　品詞数

第12表に示したように名詞の使用は減少して，そのかわりに助詞，動詞の出現が目立ってきた。

(ハ)　文の種類及び構造

第13，14表でみられるように前回に比べて構文に於て

第11表　文の数

| 一文中の品詞数 | 文の数 | % |
|---|---|---|
| 1 | 80 | 57.6 |
| 2 | 23 | 16.5 |
| 3 | 19 | 13.7 |
| 4 | 11 | 7.9 |
| 5 | 5 | 3.6 |
| 7 | 1 | 0.7 |
| 合計 | 139 | |

第12表　品詞の出現率

| 品詞 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 33 | 12.1 |
| 代名詞 | 16 | 5.9 |
| 数詞 | 5 | 1.8 |
| 動詞 | 57 | 21.0 |
| 形容詞 | 7 | 2.6 |
| 形容動詞 | 5 | 1.8 |
| 副詞 | 5 | 1.8 |
| 感動詞 | 46 | 16.9 |
| 助動詞 | 18 | 6.6 |
| 助詞 | 67 | 24.7 |
| 擬声 | 13 | 4.8 |
| 合計 | 272 | |

第13表　文の種類

| 文の種類 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 擬声 | 13 | 8.6 |
| 文にならないもの | 81 | 53.3 |
| 平叙文 | 30 | 19.7 |
| （肯定文） | (26) | (17.1) |
| （否定文） | ( 4) | ( 2.6) |
| 疑問文 | 18 | 11.8 |
| 命令文 | 10 | 6.6 |
| 合計 | 152 | |

第14表　文の構造

| 文の構造 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 一文節 | 109 | 78.4 |
| 二文節 | 25 | 18.0 |
| 三文節 | 5 | 3.6 |
| 合計 | 139 | |

の進歩は殆んどない。併し文の種類のうち文にならないものが減少して疑問文の急激な増加が目立つ。コレハ？という代名詞で命名を求める単純な質問の形より進歩してイレナイノ？　イレルノ？　ヤッテイイノ？　キレルノコレ？　など動詞と助詞の組合せによって状態の説明を求めるようになる。また擬声の出現もみられ，風船をとばしてジャーンと飛び上ったり，ボールをトーンとけり返したりなど，運動面の発達と共に音を楽しむ状態がみられる。

(ニ)　語彙

前回と比較して語彙数の増加及び使用頻度の高い品詞（名詞，動詞）の変化はない。名詞の使用回数は減少して動詞，副詞が僅かではあるが多くなっている。名詞では飲食物（ケーキ，ゴハン，キュウリ，ショウ〃など）が全体の36.3%も占め，次いで遊戯遊具（ボール，フウセン）が15.3%，固有名詞が12.1%の順になっている。動詞では，居ル，焼ク，持ツ，切ル，行ク，入レル，入イルなど状態の説明で連用形が多い。そうして今迄は連用，終止形の使用だったのが，アソボウ，イコウ，ハンナイ，イナイなど未然形の出現が，始めてあらわれる。副詞ではマダ，ソオ，ドウモなどがある。なお使用頻度の高い語として，ウン（応答29）テ（接続助詞22）ノ（終助詞18）コレ（代名詞14）居ル，焼ク（動詞11）がある。（第15表）

第15表　語彙の出現頻度

| 品詞 | 頻度 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 22 | 28.5 |
| 代名詞 | 2 | 2.6 |
| 数詞 | 3 | 3.9 |
| 動詞 | 15 | 19.5 |
| 形容詞 | 4 | 5.2 |
| 形容動詞 | 2 | 2.6 |
| 副詞 | 4 | 5.2 |
| 感動詞 | 5 | 6.5 |
| 助動詞 | 6 | 7.8 |
| 助詞 | 11 | 14.3 |
| 擬声 | 3 | 3.9 |
| 合計 | 77 | |

以上は16回目の結果でTは新しいことばに対して繰り返して云って強化させ語彙を豊富にする一方，話しかけに対してゆったりと聞いてやり，動作を言語化しながら拡充質問をして説明を求める。Cは表情も豊かで楽しく会話にのる。擬声を発っしてTをからかう余裕も出てきた。また母親の口まねでイマアゲマスコボサナイデネなどといって命令したりする。質問や応答に変化が出てきた。ヤッテイイノ？　など説明して質問したり，ウンだけの応答が，いる？→イナイという工合に形式が高度になってきた。そして，ヤイノ，ヤクノとか○○チェンチェ，○○チェンチェイと繰返し学習して訂正したことばを伝える態度もみえている。

d）　第25回目　2；11—8

(イ)　文の数

第16表に示したように文の数も221となっておしゃべりになり一文中の品詞数も急激に増加して長い文が話されるようになる。

(ロ)　品詞数

第17表にみるように今迄にみられなかった連体詞，接

第16表　文の数

| 一文中の品詞数 | 文の数 | % |
|---|---|---|
| 1 | 98 | 44.3 |
| 2 | 24 | 10.9 |
| 3 | 27 | 12.2 |
| 4 | 26 | 11.7 |
| 5 | 18 | 8.1 |
| 6 | 11 | 5.0 |
| 7 | 12 | 5.4 |
| 8 | 2 | 0.9 |
| 9 | 1 | 0.5 |
| 10 | 1 | 0.5 |
| 14 | 1 | 0.5 |
| 合　計 | 221 | |

第17表　品詞の出現率

| 品　詞 | 頻　数 | % |
|---|---|---|
| 名　詞 | 67 | 10.8 |
| 代名詞 | 68 | 10.9 |
| 数　詞 | 3 | 0.5 |
| 動　詞 | 111 | 17.8 |
| 形容詞 | 9 | 1.0 |
| 連体詞 | 1 | 0.2 |
| 形容動詞 | 4 | 0.6 |
| 副　詞 | 26 | 4.2 |
| 接続詞 | 2 | 0.3 |
| 感動詞 | 93 | 15.0 |
| 助動詞 | 50 | 8.1 |
| 助　詞 | 186 | 29.9 |
| 擬　声 | 1 | 0.2 |
| 合　計 | 621 | |

第18表　文の種類

| 文の種類 | 頻　数 | % |
|---|---|---|
| 擬　声 | 1 | 6.4 |
| 文にならないもの | 114 | 50.7 |
| 平叙文 | 71 | 31.5 |
| （肯定文） | (65) | (28.9) |
| （否定文） | ( 6) | ( 2.7) |
| 疑問文 | 23 | 10.2 |
| 命令文 | 16 | 7.1 |
| 合　計 | 225 | |

続詞も使用され全品詞にわたっての出現がみられる。

(ハ)　文の種類及び構造

平叙文，三文節の急激な増加と共に多語文も話され始める。マタココオニンギョウヤッテルヨ，オミジュノジョーシャンガヤッチャッタノコウヤッテ，ウルチャイナンダッテジョーシャンヤッテルヨ，コレナンカコウシュウシュウッテクチカラデテキチャッタヨなどのようにまだ倒置されているが主語，述語，修飾語を含んで説明されている。（第18，19表）

第19表　文の構造

| 文の構造 | 頻　数 | % |
|---|---|---|
| 一文節 | 128 | 58.0 |
| 二文節 | 47 | 21.2 |
| 三文節 | 30 | 13.6 |
| 多語文 | 16 | 7.2 |
| 合　計 | 221 | |

第20表　語彙の出現頻度

| 品　詞 | 頻　度 | % |
|---|---|---|
| 名　詞 | 51 | 32.7 |
| 代名詞 | 7 | 4.5 |
| 数　詞 | 3 | 1.9 |
| 動　詞 | 35 | 22.4 |
| 形容詞 | 6 | 3.9 |
| 連体詞 | 1 | 0.6 |
| 形容動詞 | 2 | 1.3 |
| 副　詞 | 14 | 9.0 |
| 接続詞 | 1 | 0.6 |
| 感動詞 | 11 | 7.1 |
| 助動詞 | 8 | 5.1 |
| 助　詞 | 16 | 10.3 |
| 擬　声 | 1 | 0.6 |
| 合　計 | 156 | |

(ニ)　語彙

第20表にみられるように，語彙数の急激な発達が目立つ。名詞の内容としては，相変らず飲食物（チョコレート，クリーム，ケーキなど）が26.8%，次いで動物（ゾーサン，キリンなど）が20.9%，そうして日用品（スイトウ，コップ，オナベなど）が10.4%となっている。動詞では，ヤル，居ル，入レル，持ツ，来タ，見ルなどが多く使用されている。助詞は終助詞のネ，ヨ，ノの使用頻度が高く44.1%となっている。次いで接続助詞テが27.4%，格助詞22.1%，その他デ，ノ，ニ，ヘ，ガ，カラなど豊富に種類がみられる。使用頻度の高いものとしてはテ（接続助詞50）コレ（代名詞34）ヨ（終助詞29）ノ（終助詞25）ネ（終助詞20）ヤル（動詞20）居ル（動詞18）タ（助動詞15）などがある。

以上25回目は遊びによくのり会話が発展していくようになる。Tは経験のないものに対しては命名して聞かせる。動作の言語化は勿論だが説明を求めたり拡充させるような質問をする。例えば「これなんだった？」と質問するとユキと応答するので正しく訂正してユキダルマと命名して細かい説明を加えてやる。CはTのことばをすぐ取り入れて使用したりコレナンデスカ？　ココニオイテイイ？　など質問もさかんにする。また質問に対して説明が細かくなり情緒表現もみられる（コウヤッテネサムイカラネ，ウルサイナンダッテゾウサンヤッテルヨ，コレナニカシュウシュウッテクチカラデテキチャッタヨなど）。自発的にコケッコッコヨ→ニワトリ，コウチャイッテクノ→イレンノ，コレオシリ→コレシッポという工合にすぐ訂正して伝える。なお倒置（コッチヤッパリヤッテルノラッパ，ダシチャッタコッチカラ，モッテキタノコレニ），混乱（オミジュノ（ヲ），ゾウシャンガヤッチャッタノコウヤッテ，モッテキタノコレ（コ）ニ，モッテキタノナイヨ〈持ってこないよ〉の意味）などの状態であるが豊富にことばが使用されている。

e）第32回目　3；2—28

(イ) 文の数

前回と同様に長い文が話されるようになる。（第21表）

(ロ) 品詞数

各品詞が使用されていることは同じだが名詞，助動詞の出現が再び増加している。（第22表）

(ハ) 文の種類及び構造

第23表にみるように文の種類の出現に於ては増加はみられないが構造上（第24表）に於て非常な進歩がみられる。二文節が減少して並列文（ヤサイトウッテマスグレープスモウッテマス），複文（オチュカイイッテクルカラオシュルパン（オルスパン）シテテヨ）が話されるようになる。

第21表　文の数

| 一文中の品詞数 | 文の数 | % |
|---|---|---|
| 1 | 69 | 47.3 |
| 2 | 23 | 15.7 |
| 3 | 17 | 11.6 |
| 4 | 15 | 10.3 |
| 5 | 9 | 6.2 |
| 6 | 4 | 2.7 |
| 7 | 5 | 3.4 |
| 8 | 2 | 1.4 |
| 10 | 1 | 0.7 |
| 11 | 1 | 0.7 |
| 合計 | 146 | |

(ニ) 語彙

第25表にみるように語彙数は前回より減少している。最も使用頻度の高い名詞の内容として相変らず身近かな飲食物（オヤサイ，オ茶，パン，ジュースなど）が42.4%を示め，次いで抽象名詞（今，オツカイ，ミギ，ナカなど）が20.0%，キイロ，アカ，ミドリなど8.7%となっている。前回より頻度の多くなった形容動詞ではダメ

第22表　品詞の出現率

| 品詞 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 名詞 | 80 | 21.8 |
| 代名詞 | 24 | 6.5 |
| 数詞 | 13 | 3.5 |
| 動詞 | 43 | 11.7 |
| 形容詞 | 12 | 3.3 |
| 連体詞 | 2 | 0.5 |
| 形容動詞 | 8 | 2.2 |
| 副詞 | 7 | 1.9 |
| 感動詞 | 58 | 15.7 |
| 助動詞 | 40 | 10.9 |
| 助詞 | 80 | 21.7 |
| 擬声 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 368 | |

第23表　文の種類

| 文の種類 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 擬声 | 1 | 0.7 |
| 文にならないもの | 81 | 55.1 |
| 平叙文 | 45 | 30.6 |
| （肯定文） | (43) | (29.3) |
| （否定文） | ( 2) | ( 1.3) |
| 疑問文 | 13 | 8.8 |
| 命令文 | 7 | 4.8 |
| 合計 | 147 | |

第24表　文の構造

| 文の構造 | 頻数 | % |
|---|---|---|
| 一文節 | 88 | 60.3 |
| 二文節 | 29 | 19.8 |
| 三文節 | 20 | 13.7 |
| 多語文 | 7 | 4.8 |
| 並列文 | 1 | 0.7 |
| 複文 | 1 | 0.7 |
| 合計 | 146 | |

第25表　語彙の出現頻度

| 品　　詞 | 頻　　度 | % |
|---|---|---|
| 名　　詞 | 45 | 38.5 |
| 代　名　詞 | 4 | 3.4 |
| 数　　詞 | 6 | 5.1 |
| 動　　詞 | 22 | 18.8 |
| 形　容　詞 | 3 | 2.6 |
| 連　体　詞 | 1 | 0.9 |
| 形　容　動　詞 | 4 | 3.4 |
| 副　　詞 | 4 | 3.4 |
| 感　動　詞 | 7 | 6.0 |
| 助　動　詞 | 6 | 5.1 |
| 助　　詞 | 14 | 11.9 |
| 擬　　声 | 1 | 0.9 |
| 合　　計 | 117 | |

ダメダ，オオキナなどがみられる。動詞の使用はやや減少しているがアル，居ル，売ル，スル，ナサイなどの使用が多い。なお使用頻度の高い語としてウン（応答28），デス（助動詞20），テ（接続助詞19），コレ（代名詞18）などがある。

cl以上はose に近づいた時期の結果であり楽しんで遊びが展開されていく。発声にも抑揚にも発表意欲がみちていて会話が続けられるようになる。Tが聞き返すと繰り返し発語して伝えようと努力する（コノオチャハネパルオチャーパルオチャデス）。質問には丁寧に説明する（オオキナユビワ100エンデス，ホラコノホウガオオキイデス，アッチノミギガワニアリマスオミセ，アノネオニクガネヤスインデス）。又自発的に理由を説明して聞かせる（オツカイイッテクルカラオルスバンシテテヨ）など伝達や表現が細かくなり会話が自由に流れるようになった。しかしまだ長い語になると音が抜ける脱落状態（グレープス→グレープジュース），位置が入れ変る音節の置換（オシュルバン→オルシュバン）など混乱状態も残っている。Tは専ら受身に回り間違えた応答を訂正し受けとめる（オレンジ→キュウリね，オツクエノパン→三角のパンねという工合に）。

2.　発達的考察

(イ)　文の数と長さ

第26表は15分間に話された文の数であり又一文を構成する品詞数から文の長さを調べたものである。これによると指導が進むにつれて文の数は第25回目（2歳迄）迄は増加するがそれ以後になると減少してくる。文の長さの方は次第に長くなっている。

(ロ)　品詞

第27表にみるように次第に使用される品詞の種類は増加している。出現頻度は遊びの内容によってかなり影響をうけているものと思われるがその中名詞の使用は減少して助詞の使用が多くなっていくことがうかがえる。

語彙は第28表であるが使用される語彙数も指導がすすむにつれて増加する。

次に各品詞別に語彙の内容を発達的に見ると第29～36

第26表　文の数と長さ

| 一文中の品詞数 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 文の数 | % | 文の数 | % | 文の数 | % | 文の数 | % | 文の数 | % |
| 1 | 38 | 80.9 | 137 | 65.2 | 80 | 57.6 | 98 | 44.3 | 69 | 47.3 |
| 2 | 7 | 14.9 | 39 | 18.6 | 23 | 16.5 | 24 | 10.9 | 23 | 15.7 |
| 3 | 1 | 2.1 | 24 | 11.4 | 19 | 13.7 | 27 | 12.2 | 17 | 11.6 |
| 4 | 1 | 2.1 | 8 | 3.8 | 11 | 7.9 | 26 | 11.7 | 15 | 10.3 |
| 5 | | | 2 | 1.0 | 5 | 3.6 | 18 | 8.1 | 9 | 6.2 |
| 6 | | | | | | | 11 | 5.0 | 4 | 2.7 |
| 7 | | | | | 1 | 0.7 | 12 | 5.4 | 5 | 3.4 |
| 8 | | | | | | | 2 | 0.9 | 2 | 1.4 |
| 9 | | | | | | | 1 | 0.5 | | |
| 10 | | | | | | | 1 | 0.5 | 1 | 0.7 |
| 11 | | | | | | | | | 1 | 0.7 |
| 12 | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | 1 | 0.5 | | |
| 合　計 | 47 | | 210 | | 139 | | 221 | | 146 | |

第27表　品詞の出現率

| 品詞 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 名詞 | 18 | 30.5 | 79 | 23.9 | 33 | 12.1 | 67 | 10.8 | 80 | 21.8 |
| 代名詞 | 8 | 13.6 | 29 | 8.8 | 16 | 5.9 | 68 | 10.9 | 24 | 6.5 |
| 数詞 | 3 | 5.1 | | | 5 | 1.8 | 3 | 0.5 | 13 | 3.5 |
| 動詞 | 9 | 15.2 | 44 | 13.3 | 57 | 21.0 | 111 | 17.8 | 43 | 11.7 |
| 形容詞 | 3 | 5.1 | 4 | 1.2 | 7 | 2.6 | 9 | 1.0 | 12 | 3.3 |
| 連体詞 | | | | | | | 1 | 0.2 | 2 | 0.5 |
| 形容動詞 | | | 19 | 5.7 | 5 | 1.8 | 4 | 0.6 | 8 | 2.2 |
| 副詞 | | | 5 | 1.5 | 5 | 1.8 | 26 | 4.2 | 7 | 1.9 |
| 接続詞 | | | | | | | 2 | 0.3 | | |
| 感動詞 | 8 | 13.6 | 68 | 20.6 | 46 | 16.9 | 93 | 15.0 | 58 | 15.7 |
| 助動詞 | 8 | 13.6 | 18 | 5.4 | 18 | 6.6 | 50 | 8.1 | 40 | 10.9 |
| 助詞 | 2 | 3.3 | 63 | 19.0 | 67 | 24.7 | 186 | 29.9 | 80 | 21.7 |
| 擬声 | | | 2 | 0.6 | 13 | 4.8 | 1 | 0.2 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 59 | | 331 | | 272 | | 621 | | 368 | |

第28表　語彙の出現

| 品詞 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 名詞 | 9 | 34.6 | 30 | 38.0 | 22 | 28.5 | 51 | 32.7 | 45 | 38.5 |
| 代名詞 | 2 | 7.7 | 4 | 5.1 | 2 | 2.6 | 7 | 4.5 | 4 | 3.4 |
| 数詞 | 1 | 3.8 | | | 3 | 3.9 | 3 | 1.9 | 6 | 5.1 |
| 動詞 | 6 | 23.1 | 14 | 17.7 | 15 | 19.5 | 35 | 22.4 | 22 | 18.8 |
| 形容詞 | 2 | 7.7 | 3 | 3.8 | 4 | 5.2 | 6 | 3.9 | 3 | 2.6 |
| 連体詞 | | | | | | | 1 | 0.6 | 1 | 0.9 |
| 形容動詞 | | | 5 | 6.3 | 2 | 2.6 | 2 | 1.3 | 4 | 3.4 |
| 副詞 | | | 1 | 1.3 | 4 | 5.2 | 14 | 9.0 | 4 | 3.4 |
| 接続詞 | | | | | | | 1 | 0.6 | | |
| 感動詞 | 2 | 7.7 | 4 | 5.1 | 5 | 6.5 | 11 | 7.1 | 7 | 6.0 |
| 助動詞 | 2 | 7.7 | 6 | 7.6 | 6 | 7.8 | 8 | 5.1 | 6 | 5.1 |
| 助詞 | 2 | 7.7 | 10 | 12.6 | 11 | 14.3 | 16 | 10.3 | 14 | 11.9 |
| 擬声 | | | 2 | 2.5 | 3 | 3.9 | 1 | 0.6 | 1 | 0.9 |
| 合計 | 26 | | 79 | | 77 | | 156 | | 117 | |

表のとうりである。名詞の内容はすでに述べたが，のりもの，日用品，飲食物，動物など身辺の世界から抽象的なものへとひろがりをみせている（第29表）。代名詞は第30表に示したように場所を指示するココの使用が多く次第に事物を指示するコレの頻度が高くなる。方角を指示するコッチ，アッチなどもあらわれ始めるが人に関する代名詞の出現は遅れてみられない。近称（コ）が最も早く使用されド，ア，ソの順に出現し，ソが最も遅れる。数詞は，ヨエン，ジュウエン，100エン，40エンなどと値段をつけて買物ごっこをしたり，ヒトツ，フタツ10コといってよこしたり，ココニ5ニンノルヨと説明したりなど数量を現わして正しく使えるようになる。動詞を活用形の上からしらべたものが第31表である。最初は連用，終止形だけの使用であるが未然形，命令形が次第に使われだす。しかし連体，仮定形は未だみられなかった。第32表によれば形容詞ではタカイ，イタイなどからナイナイ，オオキイ，カワイイ，イイ，ウルサイ，コワイなど空間，感覚，感情表現から善悪の判断まで広範囲

第29表　名詞の分類

| 分類 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 自然 | | | 6 | 7.6 | | | 5 | 7.9 | | |
| 動物 | | | 7 | 8.9 | 3 | 9.1 | 14 | 20.9 | | |
| 植物 | | | 4 | 5.1 | | | | | | |
| 建造物 | | | 5 | 6.3 | 1 | 3.0 | 1 | 1.5 | 3 | 3.8 |
| 人 | | 5.6 | 5 | 6.3 | | | 4 | 6.0 | 4 | 5.0 |
| 身体・生理 | | | 9 | 11.4 | | | 2 | 2.8 | 1 | 1.3 |
| 病気・薬品 | | | | | | | 1 | 1.5 | | |
| 飲食物 | | | 5 | 6.3 | 12 | 36.3 | 18 | 26.8 | 34 | 42.4 |
| 服装品 | | | | | 1 | 3.0 | 1 | 1.5 | 1 | 1.3 |
| 日用品・家具 | 2 | 11.1 | 12 | 15.2 | 3 | 9.1 | 7 | 10.4 | 4 | 5.0 |
| 遊戯遊具 | | | 1 | 1.2 | 5 | 15.3 | 6 | 8.9 | | |
| 交通通信 | 15 | 83.3 | 4 | 5.1 | | | 1 | 1.5 | 2 | 2.5 |
| 社会 | | | | | 1 | 3.0 | | | 1 | 1.3 |
| 固有名詞 | | | 9 | 11.4 | 4 | 12.1 | 3 | 4.5 | 7 | 8.7 |
| 抽象名詞 | | | 2 | 2.5 | | | 2 | 2.8 | 16 | 20.0 |
| 動詞的名詞 | | | 6 | 7.6 | | | 1 | 1.5 | | |
| その他 | | | 4 | 5.1 | 3 | 9.1 | 1 | 1.5 | 7 | 8.7 |
| 合計 | 18 | | 79 | | 33 | | 67 | | 80 | |

第30表　代名詞の分類

| 種類 | | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 事物 | | 2 | 25.0 | 17 | 58.6 | 14 | 87.5 | 46 | 67.7 | 19 | 79.1 |
| 場所 | | 6 | 75.0 | 10 | 34.5 | 2 | 12.5 | 16 | 23.5 | 4 | 16.7 |
| 方角 | | | | 2 | 6.9 | | | 6 | 8.8 | 1 | 4.2 |
| 他称 | 近称（コ） | 8 | 100.0 | 28 | 96.5 | 16 | 100.0 | 51 | 75.0 | 22 | 91.6 |
| | 中称（ソ） | | | | | | | 1 | 1.5 | | |
| | 遠称（ア） | | | | | | | 2 | 3.0 | 1 | 4.2 |
| 不定称（ド） | | | | 1 | 3.5 | | | 14 | 20.5 | 1 | 4.2 |
| 合計 | | 8 | | 29 | | 16 | | 68 | | 24 | |

第31表　動詞の活用

| 活用形 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 未然 | | | | | 9 | 15.8 | 9 | 8.1 | | |
| 連用 | 7 | 77.8 | 32 | 72.7 | 28 | 49.1 | 54 | 48.7 | 9 | 20.9 |
| 終止 | 1 | 11.1 | 12 | 27.3 | 20 | 35.1 | 44 | 39.6 | 31 | 72.1 |
| 命令 | | | | | | | 4 | 3.6 | 3 | 7.0 |
| 語幹のみ | 1 | 11.1 | | | | | | | | |
| 合計 | 9 | | 44 | | 57 | | 111 | | 43 | |

第32表　形容詞の分類

| 内容 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 感覚（触覚） | 1 | 33.4 | | | 1 | 14.3 | 1 | 11.1 | | |
| 善悪 | | | | | 4 | 57.1 | 5 | 55.6 | 6 | 50.0 |
| 大小 | | | 1 | 25.0 | 1 | 14.3 | | | 2 | 16.7 |
| 空間 | 2 | 66.6 | 2 | 50.0 | 1 | 14.3 | 1 | 11.1 | 4 | 33.3 |
| 感情 | | | 1 | 25.0 | | | 2 | 22.2 | | |
| 合計 | 3 | | 4 | | 7 | | 9 | | 12 | |

に使用されるようになる。形容動詞では，ヤダ，ダメという自己中心的な表現からオンナジ，オオキナというように状態などの表現に発達している。副詞は，モットという要求語から始まりウンだけの応答だったのがソオ，ドウゾなどに変って会話が続けられるようになる。またドンドーン，ウーンウーン，シュッシュッなどの擬声語がさかんに使用され，マダ，イマ，コンド，ミンナ，イッパイなど時，数量をあらわすことばも使われだす。感動詞は第33表にみるように話しかけに対する応答（ウン，ハイ）の返事が各段階において最も出現頻度が高い。次いでアツ，アラなどの感動をあらわすもの，ウーン？の聞き返しや，ホラ，アノネなどの呼びかけがみえている。助動詞の分類及び活用は第34，35表である。これを意味上の分類からみると完了，過去をあらわすタ，ダから次第に断定のダ，デス，丁寧のマスの使用が目立ってくる。打消しのナイ，意志，推量のウもあらわれている。しかし使役，受身の使用はまだみられなかった。なお接続上からみると終止形が最も多く連用，未然形と使用されている。連体，仮定形はまだ出現していない。この他連体詞コノ，接続詞マタの使用もみられだす。次ぎに第36表

第33表　感動詞の分類

| 内容 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 感動 | 1 | 12.5 | 13 | 19.1 | 6 | 13.0 | 26 | 28.0 | 4 | 6.9 |
| 呼びかけ | | | 1 | 1.5 | | | 5 | 5.3 | 7 | 12.1 |
| 応答 | 5 | 62.5 | 53 | 77.9 | 30 | 65.3 | 52 | 56.0 | 38 | 65.5 |
| 疑問 | 2 | 25.0 | 1 | 1.5 | 10 | 21.7 | 8 | 8.6 | 8 | 13.8 |
| あいさつ | | | | | | | | | 1 | 1.7 |
| 拒否 | | | | | | | 2 | 2.1 | | |
| 合計 | 8 | | 68 | | 46 | | 93 | | 58 | |

第34表　助動詞の分類

| 意味上 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 可能 | | | | | 1 | 5.6 | | | | |
| 打消し | | | 1 | 5.6 | 5 | 27.7 | 6 | 12.0 | 5 | 12.5 |
| 意志・推量 | | | 1 | 5.6 | 5 | 27.7 | 8 | 16.0 | | |
| 完了・過去 | 7 | 87.5 | 10 | 55.5 | 2 | 11.1 | 21 | 42.0 | 3 | 7.5 |
| 断定 | | | 3 | 16.6 | 1 | 5.6 | 4 | 8.0 | 20 | 50.0 |
| 丁寧 | | | 1 | 5.6 | | | 1 | 2.0 | 10 | 25.0 |
| その他 | 1 | 12.5 | 2 | 11.1 | 4 | 22.2 | 10 | 20.0 | 2 | 5.0 |
| 合計 | 8 | | 18 | | 18 | | 50 | | 40 | |

第35表　助動詞の活用

| 接続上 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 未然 | | | | | | | 4 | 8.0 | 21 | 52.5 |
| 連用 | 1 | 12.5 | 2 | 11.1 | 4 | 22.2 | 9 | 18.0 | 1 | 2.5 |
| 終止 | 7 | 87.5 | 16 | 88.9 | 14 | 77.8 | 37 | 74.0 | 18 | 45.0 |
| 合計 | 8 | | 18 | | 18 | | 50 | | 40 | |

第36表　助詞の分類

| 分類 | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 格助詞 | | | 14 | 22.2 | 6 | 9.0 | 41 | 22.1 | 24 | 30.0 |
| 接続助詞 | | | 22 | 34.9 | 23 | 34.3 | 51 | 27.4 | 24 | 30.0 |
| 副助詞 | 1 | 50.0 | 1 | 1.6 | 3 | 4.5 | 11 | 5.9 | 6 | 7.5 |
| 終助詞 | 1 | 50.0 | 26 | 41.3 | 34 | 50.7 | 82 | 44.1 | 23 | 28.7 |
| その他 | | | | | 1 | 1.5 | 1 | 0.5 | 3 | 3.8 |
| 合計 | 2 | | 63 | | 67 | | 186 | | 80 | |

第37表　文の種類

| | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 擬声 | | | 2 | 0.9 | 13 | 8.6 | 1 | 0.4 | 1 | 0.7 |
| 文にならないもの | 37 | 78.7 | 151 | 71.2 | 81 | 53.3 | 114 | 50.7 | 81 | 55.1 |
| 平叙文 | 7 | 14.9 | 35 | 16.5 | 30 | 19.7 | 71 | 31.5 | 45 | 30.6 |
| (肯定文) | (7 | 14.9) | (34 | 16.0) | (26 | 17.1) | (65 | 28.9) | (43 | 29.2) |
| (否定文) | | | ( 1 | 0.5) | ( 4 | 2.6) | ( 6 | 2.7) | ( 2 | 1.4) |
| 疑問文 | 2 | 4.3 | 2 | 0.9 | 18 | 11.8 | 23 | 10.2 | 13 | 0.8 |
| 命令文 | 1 | 2.1 | 22 | 10.5 | 10 | 6.6 | 16 | 7.1 | 7 | 4.8 |
| 合計 | 47 | | 212 | | 152 | | 225 | | 147 | |

第38表　文節数からみた文の長さ

| | 第1回目 | | 第9回目 | | 第16回目 | | 第25回目 | | 第32回目 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % | 頻数 | % |
| 一文節 | 45 | 95.7 | 176 | 83.8 | 109 | 78.4 | 128 | 58.0 | 88 | 60.3 |
| 二文節 | 2 | 4.3 | 31 | 14.8 | 25 | 18.0 | 47 | 21.2 | 29 | 19.8 |
| 三文節 | | | 3 | 1.4 | 5 | 3.6 | 30 | 13.6 | 20 | 13.7 |
| 多文節 | | | | | | | 16 | 7.2 | 7 | 4.8 |
| 並列文 | | | | | | | | | 1 | 0.7 |
| 複文 | | | | | | | | | 1 | 0.7 |
| 合計 | 47 | | 210 | | 139 | | 221 | | 146 | |

の助詞は終助詞の使用頻度が高く，接続助詞，格助詞の順になっている。終助詞では文の終りにつけるネ，ヨ，ノが各段階とも多い。接続助詞は前後を接続するテ，理由を説明するカラの使用がみられ格助詞では文節の主語を示すが，修飾の文節を作るノ，動作の基点を示すカラ，ニ，トなどがあらわれ構文が複雑になるにつれて副助詞ハ，モの使用もみられてくる。擬声は遊びの範囲が拡まり運動もさかんになるにつれて，それにともないボールをけってトーンといったり風船を飛ばしてジャーンといって音を楽しむ様子がみえてきた。

(ｲ) 構文

第37表は文の種類をみたものである。文にならないものは依然として半数を占めているが次第に減少のきざしはみられ肯定文が増加をみせている。指導がすすみ安定しだすと疑問，命令文が多くなり言語活動が活発になっている。文節数から調べたものが第38表であり発達するにつれて文節数が多くなり長い文が活されるようになる。

## 3. 考　察

2歳3ケ月より3歳3ケ月まで一年間にわたって指導を行ない録音により収録されたことばを文字化して言語の発達状況を構文の領域から検討してみた。

1) 単位時間内に話される文の数は2歳11ケ月までは増加し3歳になると減少する一方，文の長さに於ては次第に長い文が話されるようになる。

2) 指導がすすむにつれて使用される品詞の種類及び語彙は増大している。2歳11ケ月頃になると全品詞の使用がみられる。

3) 名詞は身近の命名から抽象的なものへと拡がりをみせている。

4) 代名詞は場所，事物，方角の順に使用される。

5) 動詞は2歳11ケ月頃までは連用形が多く終止，未然形の順に出現している。

6) 助詞の使用は2歳5ケ月頃より活発になり終助詞接続助詞，格助詞，副助詞の順に使用頻度が高い。

7) 構文は指導につれてよくしゃべり会話が成立し文節数が増加している。